出生をめぐる倫理研究会

戦後、出産介助は妊産婦の自宅で助産職（産婆／助産婦）が行う形から、病院で医師が行う形が一般的になっていったが、戦前から出産介助をめぐり両者はせめぎ合っていた。助産職者と医師は、それぞれどのような理屈、形で出産介助のあり方を構想してきたか。本研究会では『出産と生殖をめぐる攻防ーー産婆・助産婦団体と産科医の100年』（大月書店、2012年）の著者、木村尚子氏をお迎えし、出産介助の歴史について議論を深める。

日時

2018年3月17日（土）、13:30-16:30

内容

出産と生殖をめぐる攻防ーー産婆・助産婦団体と産科医の100年

木村尚子（広島市立大学客員研究員・非常勤講師）

ディスカッション

会場

KYOTO de MEETING

京都市南区東九条西山王町16－5

アーチウェイＨ・Ｃ　5階

＊京都駅から徒歩2分

参加無料・申込不要

問い合わせ

very.blue.straw.berry@gmail.com（由井秀樹）

主催

科学研究費補助金（特別研究員奨励費）

「戦前戦中期日本と出産の医療化――都市部の医師常駐施設における出産の動向」

研究代表者：由井秀樹

共催

立命館大学人間科学研究所「インクルーシブ社会・医療サービスプロジェクト」